

平成 30 年 第 1 回定例会 文教常任委員会

教育部所管 社会教育課

答弁者：牧藪社会教育課長

[所管事項]

無所属 戸田議員

新図書館・生涯学習複合施設建設の必要性やこれまでの努力について（仮称）

Q 9 : 「新図書館の建設」や、「新図書館を含んだ生涯学習複合施設の建設」
についての 市の建設計画が作られてきた経緯を説明されたい。

A 9 生涯学習複合施設建設基本計画が作られてきた経緯につきましては、2007 年（平成 19 年）3 月、門真市都市ビジョンにおいて、初めて本市の計画において第一中学校跡地の整備、駅前広場の整備、図書館等の再構築が掲げられました。

次に、2008 年（平成 20 年）3 月 門真市幸福町・中町まちづくり基本構想で「具体的な導入施設や空間構成、規模などについては、市民ニーズや立地誘導する企業ニーズ等を踏まえ、今後、基本計画段階において検討を進めていく。」とされ、2009 年（平成 21 年）3 月 門真市幸福町・中町まちづくり基本計画では公共施設導入の基本的な考え方が具体的に示されました。

2010 年（平成 22 年）10・11 月政策調整会議等を経て、2011 年（平成 23 年）7 月 門真市財政健全化計画・中期財政見通しの中で、複合施設とすることや 2016 年度（平成 28 年度）開設とした建設スケジュールが示され、2012 年（平成 24 年）3 月 門真市都市計画マスタープランでは、生涯学習複合施設の予定地が幸福町旧第一中学校用地に図示されました。

次に、2012 年（平成 24 年）9 月 門真市生涯学習複合施設建設基本構想では、基本コンセプトや整備方針などが、2013 年（平成 25 年）3 月門真市生涯学習複合施設建設基本計画では導入機能や構成諸室のモデル、配慮事項などが定められました。

2015 年（平成 27 年）2 月 都市再生整備計画（門真市古川橋駅周辺地区）においては計画期間の最終年度である 2019 年度（平成 31 年度）に竣工することが示されました。

Q10 :「旧 1 中跡地を含んだ古川橋駅北側に新図書館を含んだ生涯学習複合施設を作る」という現在の計画について、どのような建設計画なのか、詳しく説明されたい。

A10 2013 年（平成 25 年）3 月策定の門真市生涯学習複合施設建設基本計画におきましては「地域とともにコミュニティを育む文化・学習の交流拠点」を基本コンセプトとし、図書館機能を充実させ、文化・学習支援機能、地域情報館機能、子育て支援機能等を導入した複合施設を建設する内容となっております。

Q11 :「旧 1 中跡地を含んだ古川橋駅北側に新図書館を含んだ生涯学習複合施設を作る」という計画自体は、全ての議員の賛同を受けて進んできたはずだが、どうか？

A11 生涯学習複合施設建設については、これまでの議会において特に反対するご意見は聞いておりません。事業内容については様々なご意見、ご質問をいただいていたところでもあります。

Q12 :「新しい図書館が必要だ」とか、「新図書館を含んだ生涯学習複合施設が必要だ」と、市が考えた理由は何か？「市民や子供たちにとっての必要性」「門真市の文化や教育のレベル向上」、「『読書習慣の少なさ』の克服向上」、なども含んだ、いろいろな面から説明されたい。

A12 図書館

Q13-（1） :「新図書館を含んだ生涯学習複合施設を建設する」事は、一般市民や市内の有識者や教育関係者から「待ち望まれてきた事」だと思うが、どうか？

A13-（1） 2017 年度（平成 29 年度）市民ご意見番の自由意見では「施設の建設を待ち望んでいる。できるだけ早く開始していただきたい。空地のまま放置されている状態も見た目が悪くよろしくないと思う。」や「市民が気軽に利用できる施設が門真市には少ない。今後、地域活動が重要になる世の中になると思うので、他市にも誇れる施設が必要（中身の話）」という意見がありました。一方、「今さら箱モノ。現図書館と公民館の充実はいけないのでしょうか。」や「新しく施設を作るのもいいですが、市民プラザの更なる活用も検討してほしい。」という意見もありました。

Q13-（2）：「新しい図書館は作らなくてもよい・現状の図書館のままでよい」という「市民意見」は皆無かほとんどいない、と言ってもよいはずだが、どうか？

A13-（2） 図書館

Q14-（1）：「図書館の建て替え」や「新図書館を含んだ生涯学習複合施設の建設」が検討されるようになって以降、これまでよその自治体に対する職員による視察や文教所管委員会による議員視察が何度も行なわれて来たはずだが、これまでどういう視察が行なわれて来たのか。

- ・行き先と視察目的
- ・視察した年と月 を述べて下さい。

A14-（1）視察の目的といたしましては、生涯学習複合施設建設の参考とするためであります。

職員視察につきましては、2012年（平成24年）8月吹田市立山田駅前図書館及び千里山・佐井寺図書館、2013年（平成25年）2月伊丹市立図書館、同年5月寝屋川市立寝屋川市駅前図書館、同年10月福島県白河市立図書館及び会津若松市立生涯学習総合センター、2014年（平成26年）6月神戸市立東灘図書館、同年8月八尾市立八尾図書館、2015年（平成27年）5月龍谷大学深草図書館、同年7月高槻市立中央図書館、同年10月滋賀県^{えち}愛知郡^{あいしょう}愛荘町^{えちがわ}立愛知川図書館、2016年（平成28年）6月京都府福知山市立市民交流プラザふくちやまへ視察に行っております。

議員視察につきましては2016年（平成28年）1月愛知県一宮市立図書館及び岐阜県岐阜市みんなの森ぎふメディアコスモス、2017年（平成29年）11月長野県塩尻市立市民交流センター・えんぱーく及び須坂市のすぎか子ども読書ちゃれんじの取組を視察されております。

Q14-（2）それら視察についてかかった費用（交通費・宿泊費・諸手当全て含む）について、「職員視察の合計」、「議員視察の合計」、「職員視察と議員視察の合計」、をそれぞれ述べて下さい。

A14-（2）費用につきましては「職員視察の合計」が65,030円、「職員随行を含む議員視察の合計」が809,150円、「職員視察と議員視察の合計」が874,180円でございます。

Q16 : ここ数年間で、「新図書館を含んだ生涯学習複合施設を建設する必要性」が無くなるとか弱まるとかと、「因果関係が明白な事情」が何か発生したか？

A16 明白な事情についてはわかりませんが、計画が策定されて以降、一定の時間が経過していることは、認識しております。

Q17- (1) : 宮本市長就任以降、「旧 1 中跡地を含んだ古川橋駅北側の再開発」に関して、「従来計画の見直しや再検討を求めるような質問」をする議員が出てきたが、

(1) そういう質問をした議員の氏名といつのどういう議会でか。

(〇〇年〇月議会の本会議一般質問や〇〇委員会の質疑や所管事項質問で、)

A17- (1) 五味聖二議員より 2017 年（平成 29 年）9 月議会の本会議一般質問、同年 12 月議会の本会議一般質問に、武田朋久議員より同年 12 月議会の本会議一般質問が、五味聖二議員より 2018 年（平成 30 年）3 月議会の本会議代表質問がございました。

Q17- (2) その時の質問趣旨。

A17- (2) 質問趣旨に関しましては、五味聖二議員より 2017 年（平成 29 年）9 月議会において、「既存事業の見直し、あるいは計画している事業の見直しに対する考えであるが、全事業の見直しを行い、廃止や凍結を行う意思はいかがなものでしょうか。急激な人口減少やバランスに欠ける人口構造は問題であるならば、早急な既存事業の見直しが必要ではないか。具体的には、旧一中跡地の活用に予定している複合施設は、市民にとって益のあるものなのか。門真で一番地価の高い古川橋駅前に建設することが、市民にとって最善なのか。図書館や生涯学習施設にニーズがあるとしても、便利な駅前に商業施設や図書館や保育スペースのある高層マンションを民間企業や地権者と協力し合い建設するなどは考えられないものか。」というご質問があり、同年 12 月議会においても「旧一中跡地の活用について基本計画レベルから見直して、ゼロベースから見直しを行う考えはないか。駅前の貴重な土地に門真を訪れる方へのインパクトや市民にとって最も良い形での街づくりが望まれる。先々を考えた旧一中跡地の活用について考えを示してほしい。」とのご質問があり、2018 年（平成 30 年）3 月議会において、一中跡地を含めたまちづくりについて、昨年も一般質問しましたが、先ずもって幸福町・垣内町全体のまちづくりへのお考えをお示しください。一中跡地について、図書館をつくるという考えのみならず、まちづくり全体として防災公園を有する図書館との複合施設の在り方、あるいは市役所

移転も含めた複合施設の在り方等々、あれだけの土地ですし、活用の在り方は色々あると思います。地権者との話し合いも含め早急に結論をだすのではなく、熟慮に熟慮を重ねてより良いまちづくりを進めていただきたいと願うのですが、期限や計画にとらわれず、市民誰もが望んでいただけるようなまちづくりを行って頂きたい。とのご質問がありました。

また、同じく 2017 年（平成 29 年）12 月議会において武田朋久議員より「幸福町・中町まちづくり基本計画や生涯学習複合施設建設基本計画の策定以降、まちづくりに関わる状況変化等、計画策定当時とは前提条件が変わっている中、これまで同様の考え方のまま進めるのがよいか疑問である。前提条件が変わった現状を踏まえた見直しが必要であると考えているがどうか」というご質問がありました。

Q17-（3）それらに対して、市側は、誰が、どういう趣旨の答弁をしたか。

A17-（3） 五味聖二議員の 2017 年（平成 29 年）9 月議会では河合企画財政部長より「事業の見直し、急激な人口減少に資する有効な施策へと転換していくことは、将来の門真を見据え、健全で持続的な市政運営、財政運営を行う上で必要不可欠である。すべての事業を例外なく見直していくこととしているところであり、当該土地活用についても全体の見直しの中で総合的に議論していきたい。」と、同年 12 月議会では河合企画財政部長より「第 5 次総合計画において、市の再生の顔づくりの一つとして位置づけ、密集市街地の解消や地域の賑わいづくりにむけ、駅前の顔にふさわしいまちづくりを目指しているところであり、地元の意向等も踏まえながら、総合的に議論していきたいと考えている。」との主旨の答弁をしております。武田朋久議員の同年 12 月議会では河合企画財政部長より「まちづくりにかかわるさまざまな状況変化は認識している。また将来にわたり持続可能な市政運営、財政運営を行う上で、急激な人口減少に資する有効な施策へと転換していくため、すべての事業を見直していくこととしており、当該土地利用に関しても総合的に議論していきたい」という趣旨の答弁をしております。

2018 年（平成 30 年）3 月議会では宮本市長より現行の施設計画からも一定の期間が経過している状況の中、土地利用の観点からは、松生町では、三井不動産による開発等が今後進められる予定であることやモノレール南伸事業化の決定をはじめとした駅周辺のまちづくりの検討など、状況が大きく変化しており、また、急激な人口減少に伴う現状の厳しい財政状況の観点からは、将来にわたるランニングコストの視点も踏まえる必要性があると感じており、先の庁議におきまして、これらの考えを各部所へ周知を図ったところであり、これらの状況を踏まえ、その対応につきまして、生涯学習複合施設は、教育分野に関わるものであり、教育委員会において、これまで議論がなされてきたところでありますことから、総合教育会議の場において、教育委員の皆さまからもご意見をいただきながら、十分に検討を重ねてまいりたいと答弁いたしました。

Q18－（１） もしも今後、教育委員会会議やその他の会議で、「旧 1 中跡地を含んだ古川橋駅北側の再開発計画」の見直しや再検討が実施されるとしたら、今回のこの「所管事項質問と答弁の議事録や関係資料」は、それらの会議参加者に対して、

（１）「必読資料として」、

（２）「会議開催の前に時間的余裕を持って事前配布される」

ことが必要不可欠であり、それを怠ることは教育委員会事務局の重大な職務怠慢になるが、どうか？

A18－（１） 今回の答弁に限らず、一般的に事業の再検討に関する様々な資料については、原則として会議開催前に参加者に配布することが必要であると考えます。

Q18－（２） また、4月の教育委員会会議にも出すべきと思うが、どうか？

A18－（２） 検討資料については、必要に応じてそれぞれの会議にお示しすべきものであると考えております。